

# 根室地方の海岸線におけるワタリガラスの生息状況

藤井 薫

086-1841 北海道目梨郡羅臼町八木浜町 145

## Inhabitation Situation of Common Raven in the Coastline of Nemuro District, Eastern Hokkaido

FUJII Kaoru

145 Yagihama-chō, Rausu, Hokkaido 086-1841, Japan. ✉snowy@amail.plala.or.jp

The inhabitation situation of common raven *Corvus corax* in the coastline of central and north Nemuro district was investigated in the winter season from November 2011 to April 2012. In the period, the first observation of common raven was on November 26 at Rusa, north Nemuro district. And, the last one was on March 18 at Notsuke, central Nemuro district. At Notsuke, the number of the ravens increased rapidly in January, and 21 individuals were observed on January 14, the largest number of the season. In the investigated area, two populations, Rausu group and Notsuke group were recognized. Notsuke group inhabiting Konsen-gen'ya Plain, central and north Nemuro district; Rausu group inhabiting Shiretoko Peninsula, north Nemuro district. The changes of population numbers between two populations had no correlation. The difference of inhabitation situation between those depend on type of fishery.

### はじめに

ワタリガラス *Corvus corax* は、冬に北海道の東部と北部の崖のある海岸に少数が渡来するとされており、確実な国内での繁殖記録は知られていない(日本鳥類保護連盟 2002)。本州以南でのワタリガラスの観察記録は秋田県で4羽の群れが確認された事があるのみである(西出ら 2004)。

また、根室地方の海岸沿いに渡来するワタリガラスとの関連は判らないが、十勝地方から根室地方までの内陸の山間部の広い範囲にもエゾシカ等の狩猟や駆除が本格化した1990年代から渡来するようになったことが知られている。(玉田 2008)

本調査は、国内においてワタリガラスが安定的に渡来していると考えられる根室地方北部から中部の海岸における生息状況を把握するため、2011年から2012年の冬季に行ったものである。

### 調査方法

調査地を図1に示す、根室地方の海岸線に沿って約100 kmの区間に、根室中部に1箇所(野付半島: 図1-1)、根室北部に12箇所(標津川河口、忠類川河口、浜古多糠、薫別漁港、峯浜漁港、春刈古丹、八木浜、礼文、海岸町、岬町、ルサ川河口、相泊漁港: 図1-2-13)、合計13地点を調査定点とし、ワタリガラスの生息数を双眼鏡(8倍)と望遠鏡(15倍)を用いて調査した。定点の間の区間で出現したワタリガラスについては、最も近い定点のデータに含めた。また、各定点では10分ほど観察を行った。なお、野付半島は竜神崎から野付半島基部までのデータを野付半島とした。

本調査では、1日の調査で13地点すべてを調査する全域調査と、一部の地点のみ調査する部分調査を行い、2011年11月26日-2012年4月8日に全域調査8回、部分調査7回の合計15回の調査を実施した。

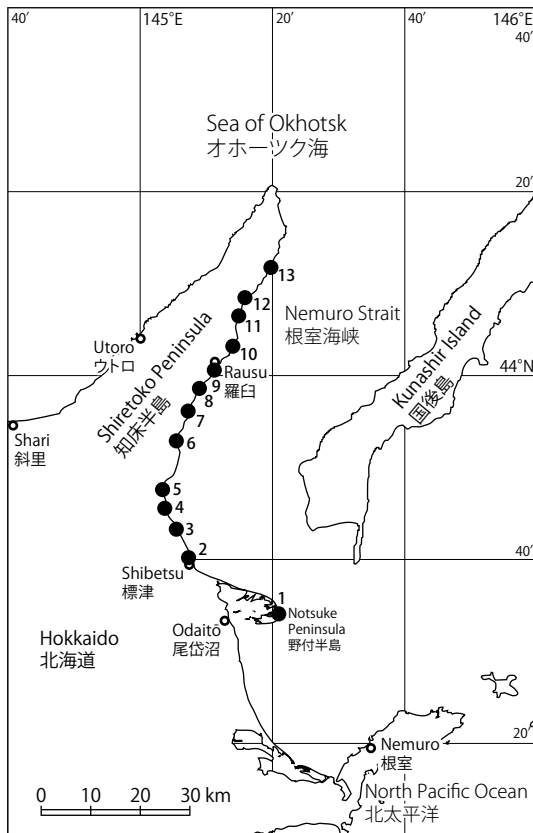


図1. ワタリガラスの調査地。1: 野付半島。2: 標津川河口。3: 忠類川河口。4: 浜古多糠。5: 薫別漁港。6: 峯浜漁港。7: 春刈古丹。8: 八木浜。9: 礼文。10: 海岸町。11: 岬町。12: ルサ川河口。13: 相泊漁港。Fig. 1. Location of observation sites of common raven. 1: Notsuke. 2: Shibetsu. 3: Chūruui. 4: Hamakotanuka. 5: Kunbetsu. 6: Minehama. 7: Shunkarikotan. 8: Yagihama. 9: Rebut. 10: Kaigan-chō. 11: Misaki-chō. 12: Rusa. 13: Aidomari.

## 結果

2011-12年冬季シーズンの各調査定点におけるワタリガラス生息数を表に示す。

13定点の内、野付半島、標津川河口、八木浜、礼文、ルサ川河口、相泊漁港の6箇所(図1-1, 2, 8, 9, 12, 13)でワタリガラスが観察された。生息数が多かったのは野付半島(図1-1)で、2012年1月14日に21羽が観察されている。これは調査期間の全定点における最多個体数である。また、知床半島の羅臼町側(八木浜、礼文、ルサ川河口、相泊漁港: 図1-8, 9, 12, 13)で、数は多くないものの広い範囲でワタリガラスが観察された。野付半島以外

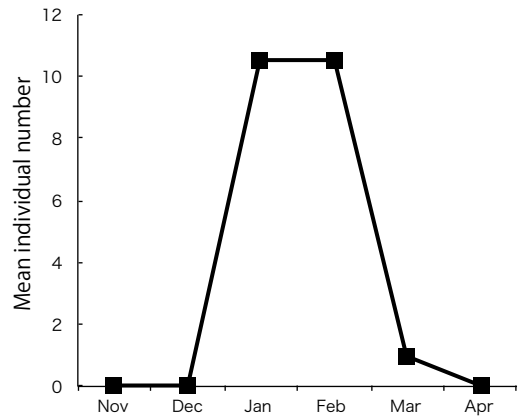


図2. 2011-12年冬季の野付半島における各月の平均ワタリガラス個体数の推移。Fig. 2. Change of mean individual number of common raven at Nostuke in 2011-12 winter season.

のワタリガラスの数は、調査期間中0-2羽の範囲で推移し、大きな変動はなかった(表)。

本シーズンにおける初認は2011年11月26日で、ルサ川河口(図1-12)で1羽を観察した。このとき、ルサ川では遡上するカラフトマスやシロザケの産卵後の魚体、ヒグマの捕食跡等に多くのカモメ類・カラス類が集まり、その中に本個体も確認された。また、3月18日に野付半島(図1-1)で2羽を観察したのが本シーズンにおける終認となった。

## 考察

根室中部と北部の海岸線におけるワタリガラスは、根室中部から北部にかけての根釧原野(野付半島-標津川河口: 図1-1-2)に生息する野付個体群と、根室北部の知床半島(八木浜-相泊漁港: 図1-8-13)に生息している羅臼個体群との2個体群が認められた。羅臼個体群は比較的早い時期から渡来するが、単独ないしは小群で見られる事が多い。野付個体群は1月中旬頃から集中的に渡来し、20羽を超える群が見られた。また今回の調査では、2つの個体群間に個体数の推移について相関関係は見られなかった。

生息状況にこのような差異が生じるのは、山地を背後に控えた半島部と平野部といった地形の違い

いの他に、漁業活動の違いによるものが大きいと考えられる。

野付個体群は根室北部のようなサケ科魚類の遡上やエゾシカの自然死や狩猟で生じる餌はあまり期待できないため、漁業活動で生じる魚類と混獲された海獣類の海岸への投棄に依存する割合が高い。そのため、12月中旬から始まる野付半島外海でのコマイ等の刺し網漁や野付湾内の氷下待ち網漁の時期にまとまった群れで渡来する(図2)。野付半島では本シーズンは、21羽が最大であったが、筆者は過去に46羽のワタリガラスの群れを観

察したこともある(2011年2月13日)。野付半島での冬季の漁業活動は1月下旬には休止期に入るが、3月中旬までワタリガラスを見る事ができたのは投棄された魚類や海獣類が残っているためである。その後の野付半島のワタリガラスの動きは今回の調査からは分らないが、少なくとも根室北部への移動を裏付けるものはなかった。

もう一つの個体群である羅臼個体群は、比較的安定して出現はするものの個体数は少ない。これは根室北部で漁業活動により投棄される魚類や海獣類が少ない事によると考えられる。一方、知床

表. 各調査地における2011-12年冬季のワタリガラス個体数. Table. Individual numbers of common raven at each observation site in 2011-12 winter season.

Number 場所 of Fig. 1 Location	2011			2012											
	Nov.	Dec.		Jan.				Feb.			Mar.		Apr.		
	26	11	24	6	9	14	15	22	5	13	19	26	18	25	8
1 野付半島 <sup>a</sup> Notsuke <sup>a</sup>	-	0	0	-	6	21	12	3	12	-	9	-	2	0	0
2 標津川河口 Shibetsu	-	0	0	-	0	-	1	0	0	-	0	-	0	0	0
3 忠類川河口 Chūru	-	0	0	-	0	-	0	0	0	-	0	-	0	0	0
4 浜古多糠 Hamakotanuka	-	0	0	-	0	-	0	0	0	-	0	-	0	0	0
5 薫別漁港 Kunbetsu	-	0	0	-	0	-	0	0	0	-	0	-	0	0	0
6 峯浜漁港 Minchama	-	0	0	-	0	-	0	0	0	-	0	-	0	0	0
7 春刈古丹 Shunkarikotan	-	0	0	-	0	-	0	0	0	-	0	-	0	0	0
8 八木浜 Yagihama	-	0	0	2	0	-	0	0	0	-	0	-	0	0	0
9 礼文 Rebun	-	0	0	-	-	-	0	0	0	1	0	-	0	0	0
10 海岸町 Kaigan-chō	-	0	0	-	-	-	0	0	0	-	0	-	0	0	0
11 岬町 Misaki-chō	-	0	0	-	-	-	0	0	0	-	0	-	0	0	0
12 ルサ川河口 Rusa	1	0	1	-	-	-	0	0	0	-	0	-	0	0	0
13 相泊漁港 Aidomari	-	0	0	-	-	-	-	0	0	-	0	1	0	0	0
合計 Total	1	0	1	2	6	21	13	3	12	1	9	1	2	0	0

<sup>a</sup>野付半島基部から竜神崎まで. From base of Notsuke Peninsula to Cape Ryūjin-zaki.

半島の羅臼側では標高300 m以上の山間部で冬季エゾシカ獺のハンターによって数多くのワタリガラスが目撃されている(桜井憲二私信)。このことから、海岸部だけの調査では根室北部の生息状況について十分に把握できないと考えられる。

また、今回の調査でもワタリガラスの生息状況と漁業活動は強い関連性があることが示されたが、根室地方では海ワシ類も同様な漁業活動との強い関連性を持つ。海ワシ類は、時期によって野付半島から風蓮湖周辺への移動も見られる事から、ワタリガラスについても根室中部と根室南部の海岸線に沿って移動している可能性がある。

根室北部の山間部のワタリガラスの生息状況や、根室中部と南部のワタリガラスの関係については今後の課題である。

## 謝辞

本調査をまとめるあたり、羅臼町在住の桜井憲二氏、羅臼町教育委員会の金澤裕司自然環境教育主幹、羅臼町郷土資料館の湧坂周一館長の両氏には羅臼町のワタリガラスの生態について貴重な知見やご助言をいただいた。記してお礼申し上げる。

## 引用文献

- 玉田克巳. 2008. 北海道東部地域におけるワタリガラスの越冬状況. 日本鳥学会誌 57: 11-19.
- 日本鳥類保護連盟. 2002. 鳥 630 図鑑 (増補改訂版). 410 pp. 日本鳥類保護連盟, 東京.
- 西出隆・武田栄悦・阿部篁子・佐藤正生・船橋功. 2004. 本州におけるワタリガラスの初記録. Strix 22: 231-235.

## 藤井薫: 根室地方の海岸線におけるワタリガラスの生息状況

根室地方中-北部の海岸線におけるワタリガラスの生息状況について2011年11月から2012年4月にかけて調査をおこなった。11月26日に根室北部の羅臼町ルサ川河口で1羽が初認され、3月21日に根室中部の野付半島で2羽が終認された。1月には野付半島で個体数が急増し、1月14日には21羽と全調査日程、全調査地における最大個体数となった。また調査地において2個体群、野付個体群と羅臼個体群が認められ、個体数の推移に個体群間の相関はなかった。2個体群の生息状況の違いは漁業活動の違いを反映していると考えられる。